

4. 考察

牛乳 原液散布

本資材を原液で3日間隔3回散布したきゅうりのアブラムシに対する防除効果は、対照薬剤のオレート液剤 60 倍希釈液3日間隔3回散布と比較すると防除効果は劣った。また、無処理と比べるとアブラムシの増殖を抑える効果はあるものの、その程度は低く、アブラムシの増殖速度を考慮すると実用的な効果は低いと考えられた。なお、第1回散布9日後の本資材 I 区のアブラムシの密度が少ないのは区内に弱っている株があったことも1つの原因であると考えられた(写真1)。

第1回散布3日後より強い牛乳臭と株および土壌表面上に汚れが認められ、散布回数を重ねる毎に臭いおよび汚れの度合いは強くなり、第1回散布9日後では散布した葉および土壌に黒いカビが発生しているところも認められた(写真1~4)。

第1回散布9日後では葉裏のところどころに黄化した葉害症状が認められ(写真5、6)、また、区内にはかなり弱った株も認められた(写真1)。

これらのことから、汚れおよび葉害においても実用上問題があると考えられた。



写真1 第1回散布9日後の牛乳散布区

株によってはかなり弱っている株も認められた。

散布した株の他に散布区の土壌も白い汚れが認められ、散布回数が増える毎に牛乳臭が強くなった。